

# 死亡の半数「なし」「故障」

## 20年23区内

# エアコン必須

## 熱中症防止

熱中症死亡者の状況を公表した東京都監察院の最新データ(2020年・速報値)によると、23区内で死亡した人の約5割がエアコンがないか故障していて、エアコンを設置していても使用していない人が8割以上だったことがわかりました。全国生活と健康を守る会連合会(全生連)は、経済的な理由でエアコンの使用や設置、修理ができない世帯があると指摘し、国の支援を求めています。(小酒井自由)



エアコンが故障し、窓を開けて生活する田中さん(9日、東京都荒川区)

同データによると、20年6〜9月の熱中症死亡者は200人でした。そのうち、187人が屋内で亡くなりました。エアコンの設置・使用状況を見ると、「設置なし」が68人(35.3%)で、故障が22人(11.8%)でした。また、エアコンの設置があっても使用していなかった人は102人(54.5%)に上りました。

## 「生活困窮者に国は支援を」

8月は最高気温が連日30度を超え、中旬に死亡

者が集中しています。30人以上が亡くなった日もありました。年齢別では、70代と80代が70人ずつと突出しています。

中甸以降、入退院を繰り返し、病院から施設入所を勧められました。費用は月15万〜20万円。貯金はあるものの入所費用のことも考えた田中さんは、新たなエアコンの購入をためらいました。

### 避難場所ない

「夜、暑くて寝られない。汗びっしょりだ。」

田中の「避難地」にならなっていた役所などの施設は新型コロナウイルス感染症の再拡大で利用できなくなっているとし、「避難できる場所もなく、電気代が高騰しているうえエアコンを使えばさらに負担は重くなる。」

都営住宅に夫婦で暮らし、生活費は幸男さんのアルバイト代と2人の年金合わせて月8万〜11万円。生活に余裕はありませんが、「故障するまで使わなくてもいいから」と田中さん。せめてガス水道代を節約しようとして、シャワーを浴びながら床におけを置き、ためた水を洗濯に使います。体調を崩した妻が6月

丸山さんは政府として物価高を踏まえた困窮者支援が必要だと指摘。特別定額給付金の支給や生活保護基準の引き上げ、夏季加算の創設など「思い切った支援が必要だ」と強調します。

### 物価高踏まえ

体調を崩した妻が6月